

第20回東福寺リウマチ膠原病疾患連携の会 開催報告

7月17日（金）20時から当院5階会議室の現地参加とWEB（Zoom）参加によるハイブリッドで開催しました。

薬剤情報提供は中外製薬株式会社の担当MRさんからIL-6受容体抗体製剤である“アクテムラ®”についての情報提供をいただきました。

本会では、「発熱・関節痛からのリウマチ膠原病疾患の鑑別」をテーマに取り上げました。

発熱に原因については、出会う頻度が圧倒的に多い“感染症”を見落とさないことが重要です。はじめは、見落としがちな感染症の種類とその臨床像と診断方法、検査の感度・特異度について共有しました。

次に、悪性腫瘍による発熱、内分泌疾患による発熱、塞栓症・薬剤による発熱についても同様にその臨床像と診断方法、検査などの感度・特異度について共有しました。

後半では、発熱・関節痛を起こしうるリウマチ・膠原病疾患を紹介し、実際の症例を題材に診断の過程を紹介しました。

今回のテーマでは、発熱、関節痛を呈するリウマチ膠原病疾患の診断においては、可能性のある疾患の典型的な臨床像を理解しておくだけでなく、同じような症状を来す

“Mimicker”を除外することの重要性を強調させていただきました。

今回は、9月18日（金）20時から開催予定です。テーマは、「呼吸器症状、聴診所見、胸部レントゲン写真からのリウマチ膠原病疾患の鑑別」です。みなさまのご参加をお待ちしております。

京都第一赤十字病院 リウマチ・膠原病内科 和田 誠